

製品名: HP1 α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12185**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	22kDa

抗原情報

遺伝子名	CBX5
別名	CBX5; HP1A; Chromobox protein homolog 5; Antigen p25; Heterochromatin protein 1 homolog alpha; HP1 alpha
遺伝子 ID	23468.0
SwissProt ID	P45973
免疫原	抗血清はヒト CBX5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 41-90

背景

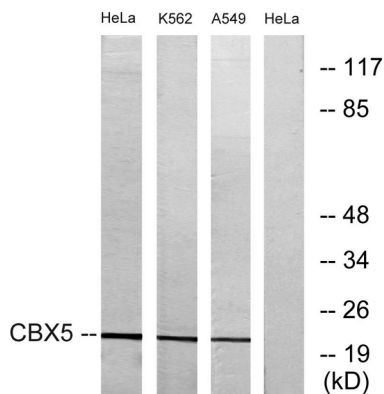
この遺伝子は、ヘテロクロマチンタンパク質ファミリーに属する、高度に保存された非ヒストンタンパク質をコードしています。こ

のタンパク質はヘテロクロマチンに豊富に存在し、セントロメアと関連しています。このタンパク質は、メチル化されたリジン残基を介してヒストンタンパク質に結合できる単一の N 末端クロモドメインと、多数のクロマチン関連非ヒストンタンパク質とのホモ二量体形成および相互作用を担う C 末端クロモシャドウドメイン (CSD) を有しています。コードされる産物は、必須のキネトコアタンパク質との相互作用を介して、機能的なキネトコアの形成に関与しています。この遺伝子は 3 番染色体上に偽遺伝子を有しています。同じタンパク質をコードする複数の選択的スプライシングバリエントが同定されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能：ヘテロクロマチンの構成要素。「Lys-9」がメチル化されたヒストン H3 末端を認識して結合し、エピジェネティック抑制を引き起こします。ラミン B 受容体 (LBR) と相互作用します。この相互作用は、ヘテロクロマチンと核内膜の会合に寄与します。MIS12 複合タンパク質との相互作用を介して、機能的な動原体の形成に関与します。、PTM: HP1 および LBR のリン酸化は、細胞周期の様々な時期に起こるクロマチン構成および核構造の変化の一部に関与している可能性があります (類似性による)。間期にリン酸化され、有糸分裂中に過剰リン酸化される可能性があります。、類似性: 2 つの染色体ドメインを含みます。、細胞内局在: セントロメアおよびセントロメア周辺ヘテロクロマチンの構成要素です。有糸分裂中に染色体と会合します。中期および後期にクロマチンと特異的に会合します。、サブユニット: SUV420H1 および SUV420H2 と相互作用します (類似性による)。クロモシャドウドメインを介して ATRX、CHAF1A、LBR、NIPBL、SP100、STAM2、TRIM28 と直接相互作用します。クロモシャドウドメインを介して CBX3 と直接相互作用します。Lys-9 がメチル化されたヒストン H3 と相互作用します。MIS12 および C20orf127 と相互作用します。HP1BP3 と相互作用します。

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

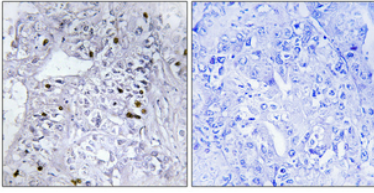
画像データ



CBX5 抗体を用いた HeLa 細胞、A549 細胞、K562 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



HP1α ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。